人為的な生態系の攪乱状況（外来種と在来種の分布状況）

人々のレジャーや社会活動、経済活動などに伴って、本来は日本に生息しない海外の生物種が侵入し、自然界へも広がっている例が数多くみられます。また、在来の生物種においても、国内の別の場所に生息していた個体群が、その種の本来の生息地でない別の地方へ移植や放流される行為も古くから行われてきました。

このような人の活動に伴う生物の移動と再野生化により、生態的に優勢な外来種によって在来の生物種が減少したり、自然界では起こらない交雑によって地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失をもたらしたりすることで、生態系へ様々な影響を与えることが懸念されています。ここでは、人為的な生態系の攪乱を明らかにするために、外来種や、それらと生態的に競合する在来種の確認状況について整理しました。

【スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の確認状況】　（底生動物・魚介類調査）

- スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）を8河川で確認

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は南アメリカ原産の巻貝で、1981年頃に食用として養殖するために台湾から輸入された種です。この種はイネ等の農作物に被害を与えることが知られています。主に水田や水路に多く分布しますが、河川が分布拡大の経路になっている可能性が考えられることから、河川での確認状況を整理しました。

スクミリンゴガイは今回とりまとめを行った63河川のうち、10河川で確認されました。前々回、前回も調査を行っている33河川での確認状況からみると、大きな変化はみられませんでした。

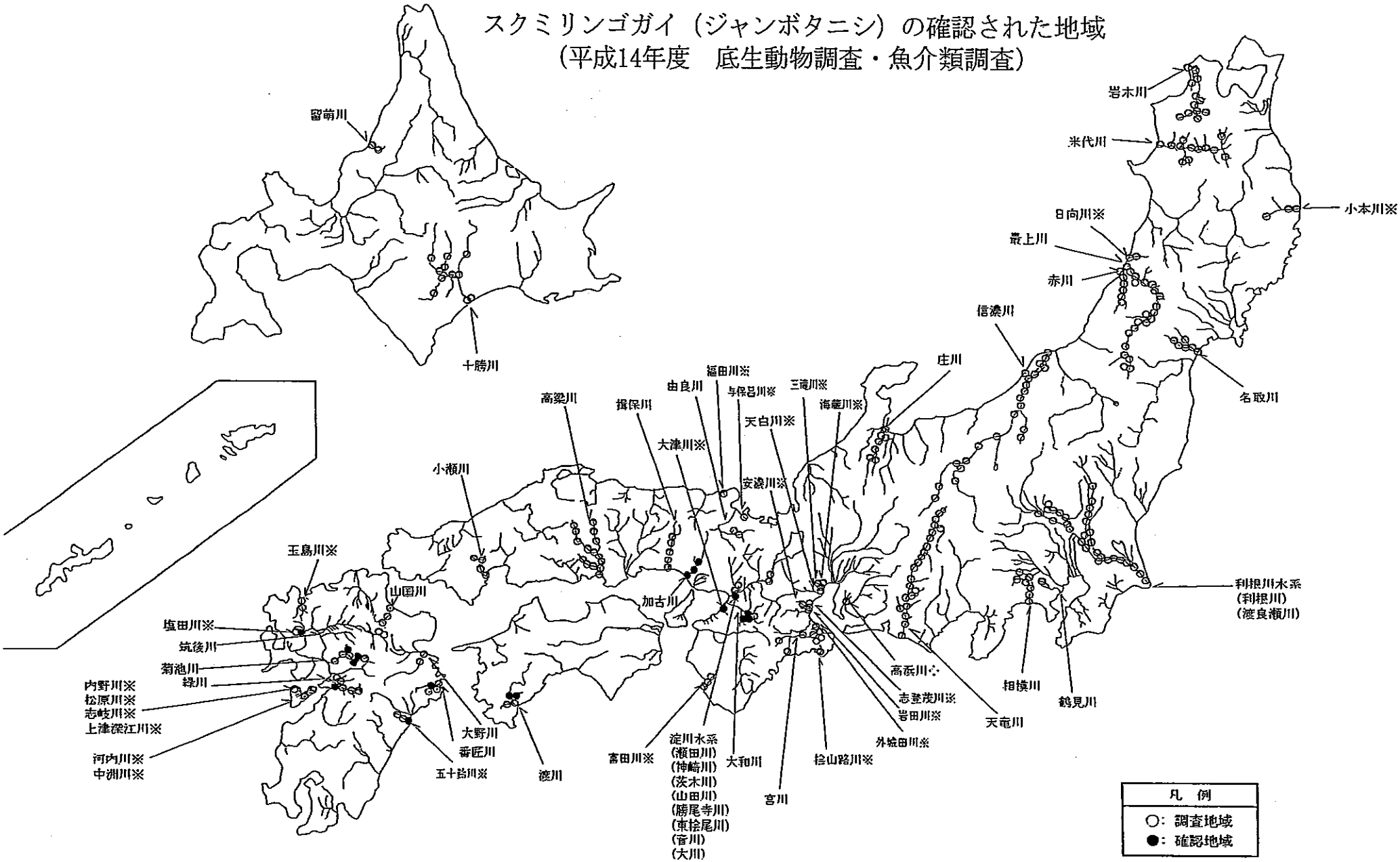
（資料掲載: 2-31、2-38ページ）

確認河川数の比較（対象河川: 33河川）

種類	前々回調査	前回調査	今回調査
スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	3河川	6河川	6河川

スクミリンゴガイは、生態系や在来種に大きな影響があるとして、外来種ハンドブック（日本生態学会編,2002)で侵略的外来種ワースト100に指定されています。スクミリンゴガイは、北海道地方、東北地方、関東地方、北陸地方、中部地方の河川では、前々回調査、前回調査、今回調査ともに確認されませんでした。一方、九州地方の番匠川では、今回調査で新たに確認されました。前々回、前回も調査を行っている33河川での確認状況からみると、大きな変化はみられませんでした。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の確認された地域
（平成14年度　底生動物調査・魚介類調査）



凡　例
○：調査地域
●：確認地域

注）○印はおおよその調査地域の位置を示す。
※印は二級水系（河川）を示す。

【カワヒバリガイとコウロエンカワヒバリガイの確認状況】　　（底生動物・魚介類調査）

- カワヒバリガイを1河川、コウロエンカワヒバリガイを6河川で確認

外来産の貝類として中国原産のカワヒバリガイとオーストラリア原産のコウロエンカワヒバリガイの確認状況を整理しました。

今回とりまとめを行った 63 河川では、カワヒバリガイは近畿地方の瀬田川で確認されました。コウロエンカワヒバリガイは、関東地方、中部地方、四国地方の 6 河川で確認されました。前々回、前回も調査を行っている 33 河川での確認状況を比較すると、確認河川数の大きな変化はみられませんでした。

（資料掲載: 2-33～2-34、2-38 ページ）

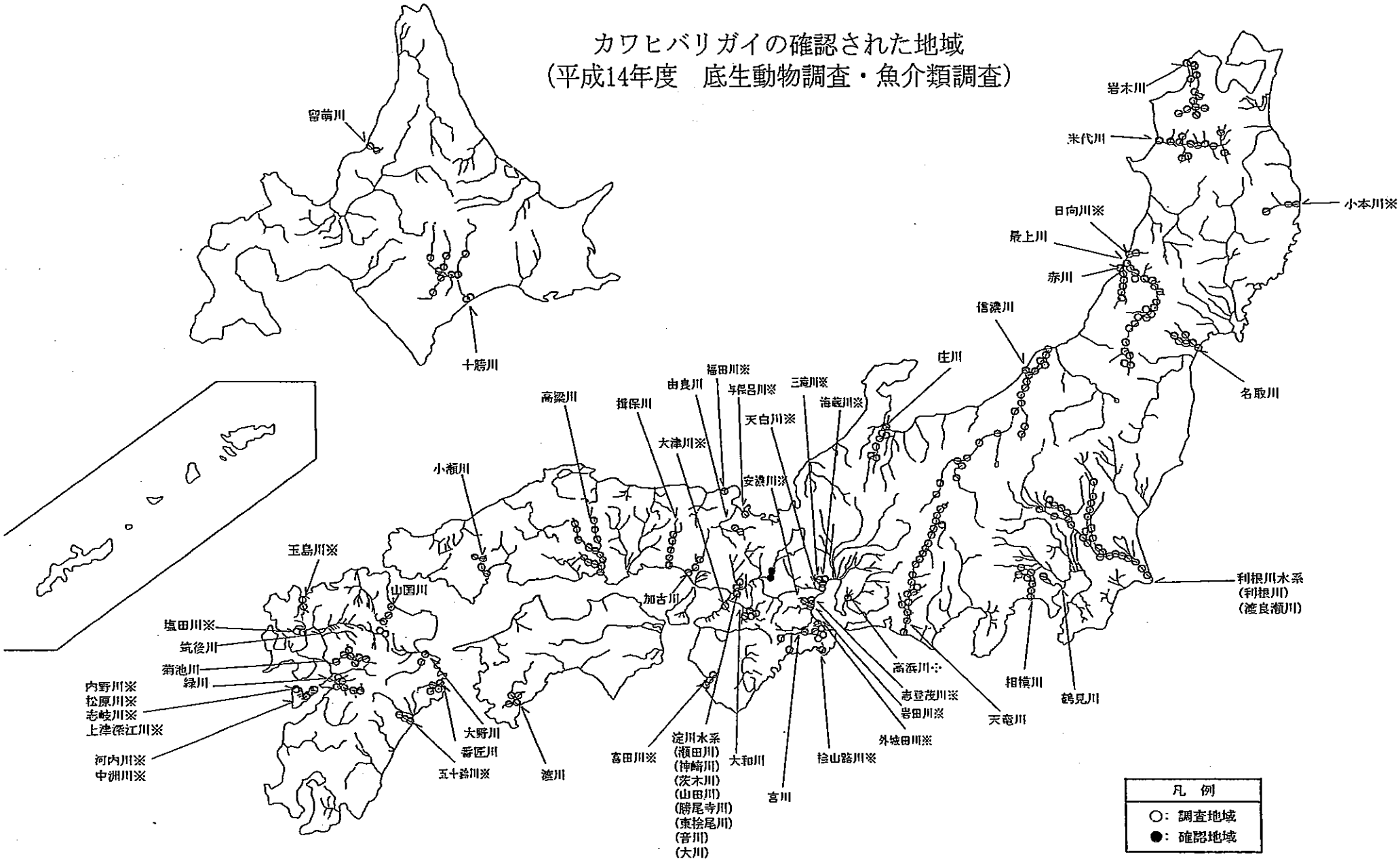
確認河川数の比較　（対象河川: 33 河川）

種類	前々回調査	前回調査	今回調査
カワヒバリガイ	0 河川	1 河川	1 河川
コウロエンカワヒバリガイ	3 河川	6 河川	5 河川

中国原産のカワヒバリガイとオーストラリア原産のコウロエンカワヒバリガイは、取水管や排水管の内壁に付着して、水の疎通を悪くする被害を出すのみでなく、大量斃死を起こし、水質の悪化を引き起こすことが知られています。カワヒバリガイは淡水域、コウロエンカワヒバリガイは汽水域に生息しますが、ともに河口域や河川域での分布拡大が懸念されている種で、生態系や在来種に大きな影響があるとして、外来種ハンドブック（日本生態学会編,2002)で侵略的外来種ワースト 100 に指定されています。

カワヒバリガイは、今回調査では近畿地方の瀬田川で確認されました。コウロエンカワヒバリガイは、北海道地方、東北地方、北陸地方の河川では、前々回調査、前回調査、今回調査ともに確認されていませんが、中部地方の宮川、四国地方の渡川で今回新たに確認されました。前々回、前回も調査を行っている 33 河川での確認状況を比較すると、確認河川数の大きな変化はみられませんでした。

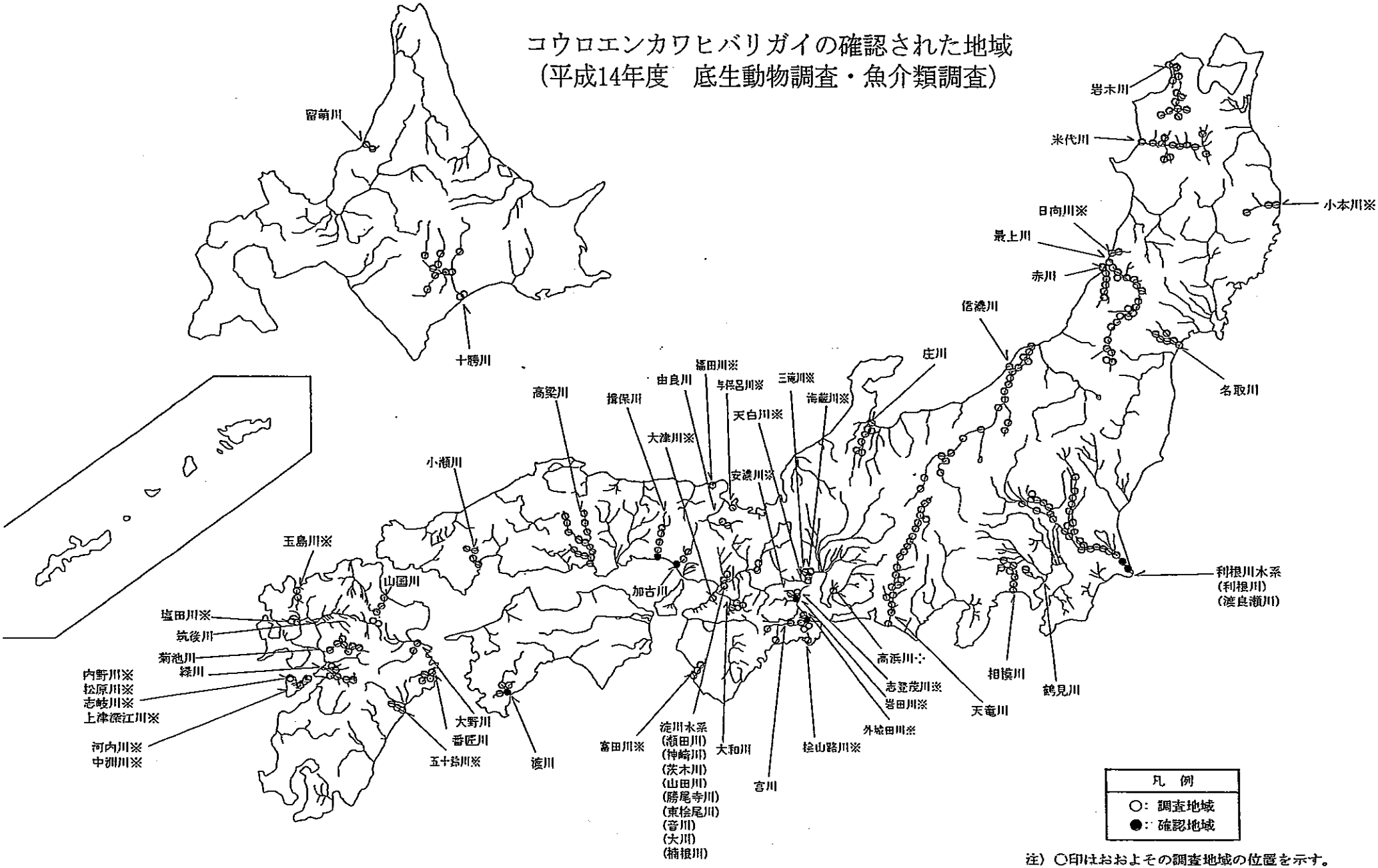
カワヒバリガイの確認された地域
(平成14年度　底生動物調査・魚介類調査)



凡　例
○：調査地域
●：確認地域

注）○印はおおよその調査地域の位置を示す。
※印は二級水系（河川）を示す。

コウロエンカワヒバリガイの確認された地域
（平成14年度　底生動物調査・魚介類調査）



凡　例
○：調査地域
●：確認地域

注）○印はおおよその調査地域の位置を示す。
※印は二級水系（河川）を示す。

【アメリカザリガニの確認状況】　　（底生動物・魚介類調査）

- アメリカザリガニを本州以南の 32 河川で確認

外来産の甲殻類であるアメリカザリガニの確認状況を整理しました。

アメリカザリガニは、アメリカ合衆国南東部の原産で、食用として養殖するために持ちこまれたウシガエルの餌として国内に持ちこまれました。今回とりまとめを行った 63 河川では、アメリカザリガニは本州以南の 40 河川で確認されました。前々回、前回も調査を行っている 33 河川での確認状況を比較すると、確認河川数に大きな変化はみられませんでした。

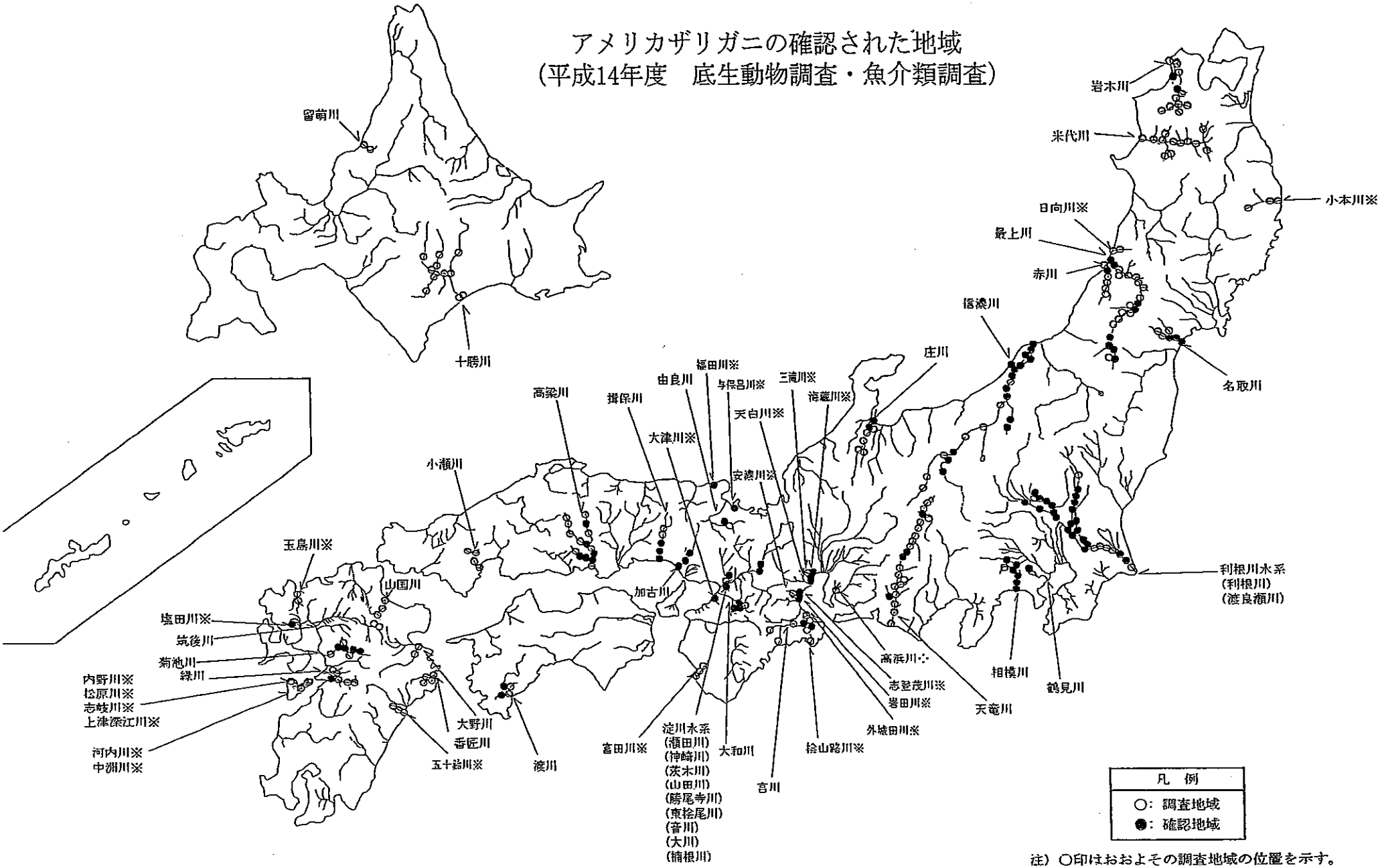
（資料掲載: 2-36、2-38 ページ）

確認河川数の比較（対象河川: 33 河川）

種類	前々回調査	前回調査	今回調査
アメリカザリガニ	23 河川	25 河川	24 河川

アメリカザリガニは、アメリカ合衆国南東部の原産で、食用として養殖するために持ちこまれたウシガエルの餌として国内に持ちこまれました。生態系や在来種に大きな影響があるとして、外来種ハンドブック（日本生態学会編,2002）で侵略的外来種ワースト 100 に指定されています。今回とりまとめを行った 63 河川では、アメリカザリガニは本州以南の 40 河川で確認されました。前々回、前回も調査を行っている 33 河川での確認状況を比較すると、確認河川数にほとんど差はみられませんでした。

アメリカザリガニの確認された地域
(平成14年度　底生動物調査・魚介類調査)



注）○印はおおよその調査地域の位置を示す。
※印は二級水系（河川）を示す。